

# あいさつ

---

矢野 重典  
(国立教育政策研究所長)

黒見 義正  
(福岡県教育センター所長)

この教育研究公開シンポジウムは、私ども国立教育政策研究所の研究成果を教育現場や一般の国民の方々に直接に還元して、教育指導方法の改善、教育・教員の資質向上に資することを目的として、平成2年から開催をいたしております。今回は第24回目のシンポジウムとなります。福岡県教育センターのご協力をいただきまして、ここ福岡の地でシンポジウムを開催することとなりました。

現在、国におきましては、教育課程の見直しが重要な課題となっています。そのため、中央教育審議会に教育課程部会を設置し、さらに教育課程部会の中に教育課程企画開発特別部会をはじめとして教科別の部会が設置され、教育課程の見直しについて検討がなされているところです。

国立教育政策研究所では平成9年度から継続して、「教科等の構成と開発に関する研究」を実施しています。このたびのシンポジウムは、そのような国の論議と、国立教育政策研究所における研究の成果を踏まえながら、これからの学校におけるカリキュラムのあり方について議論していただくことになりました。

教育課程は、国が定める学習指導要領を基準として各学校で編成することとなっておりますが、平成14年度から実施されている学習指導要領においては、総合的な学習の時間に象徴されるように、学校の裁量がより広く認められるようになっており、それだけに学校の創意工夫が非常に大切なものとなっています。

こうした状況の中で最近、それぞれの学校におけるカリキュラム開発を支援するため、各都道府県の教育センターでは、センター内に専門の窓口を設置する動きが起こっています。例えば、福岡県教育センターでは、平成12年からカリキュラムに関して各学校の相談を受け付ける電話相談の窓口を設置し、翌年には電話だけではなくて来所での相談にも応じるカリキュラム相談室を設置しています。本日は、こういった福岡県における活動についてもご紹介いただくことになっております。

基調講演は、中央教育審議会教育課程部会の委員で教育課程企画特別部会の主査も務めておられる早稲田大学教授・安彦忠彦先生をお願いいたしました。安彦

先生は、日本カリキュラム学会の代表理事も務めておられまして、カリキュラムのあり方について、日本を代表する研究者でいらっしゃいます。中央教育審議会の議論は、まだ結論が出ているわけではありませんが、安彦先生の基調講演では、これまでの国における議論の経過を踏まえながらカリキュラムのあるべき姿について、お話をさせていただくことになっております。

パネルディスカッションでは、文部科学省から板良敷初等中等教育局視学官、また当研究所から工藤初等中等教育研究部長が登壇するほか、地元、福岡県から教育センターの宮田教育経営部長、うきは市立吉井中学校の西見校長にご登壇をいただきまして、国の考え方と現場の意見をかみ合わせた議論をお願いしております。コーディネーターは、当研究所教育課程研究センター基礎研究部の鳩貝総括研究官が務めます。パネルディスカッションの中では、フロアの皆様からのご意見も頂きたいと思っておりますので、どうぞ積極的なご意見をお願いしたいと思います。

本日の議論が、お集まりの皆様方、関係する皆様方の学校のカリキュラムを、より充実、発展させ、子どもたちの生きる力を育むことに寄与することとなることを願って、開会のご挨拶とさせていただきます。



本日は、学期末の多忙な時期にもかかわらず、本県はもちろん、九州、北海道など全国各地からたくさんの方々にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。第24回教育研究公開シンポジウムの開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

このシンポジウムは、国立教育政策研究所と各県の教育センターが共催して、毎年開催されております。義務教育改革の節目となる本年、この福岡県で開催されることに大変意義深いものを感じている次第です。

さて、本日のシンポジウムは「これからの学校におけるカリキュラムのあり方」と題して、中央教育審議会における学習指導要領改定の検討経過等を踏まえて、基調講演やパネルディスカッションなどが行われる予定となっております。10月に中教審答申、「新しい時代の義務教育を創造する」においては、義務教育の使命の明確化や教育内容の改善だけでなく、地方や学校の主体性と創意工夫で教育の質を高めることが提言されています。今後は、いっそう学校の裁量や自由度を高める方向で教育改革が進んでいくものと思われます。

このような動きの中、各学校はこれまで以上に自主性・自律性を発揮して、特色ある学校づくりを目指していくことが求められています。そのためには、各学校における教育課程の工夫・改善が不可欠となってきております。2005年11月には、中教審教育課程部会が開催され、教育課程の基準の見直しについて議論がなされました。本日、皆様にお配りしたレジュメの中には、その時に配布した最新の資料も用意していただいております。義務教育に携わっておられる先生方にとっては、先の答申を踏まえての具体的な教育の中身が論議されることとなり、大変に興味のある内容ではないかと思っております。また、高等学校の先生方にとりましても、この教育課程の基準の見直しが、義務教育に続く高校教育に今後どのような影響を与えるのか、目が離せない状況になってきているのではないかと考えております。

これから行われる安彦先生の基調講演では、この教育課程部会の内容に関する

ホットな話題や、今後の教育改革の方向性に関する情報提供などを通じて、これからの学校教育におけるカリキュラムについての方向性を示唆していただけるものと思います。

パネルディスカッションでは、鳩貝先生のコーディネートのもと、特色ある学校づくりを目指した教育課程編成のあり方や、学力向上に向けたカリキュラムのあり方を中心に議論がなされる予定です。

本県におきましても、各学校が特色ある学校づくりを目指して、教育課程の編成に取り組んでおります。また県として、学力向上のためのさまざまな施策も行っております。しかしながら、まだまだ多くの課題を抱えております。それらの課題に対して、本日ご出席いただいております文部科学省の板良敷先生ならびに国立教育政策研究所の工藤先生から、全国的視野から有益なご意見がいただけるものと思っております。これらの議論が深まる中で、各学校における課題の解決に向けて、取り組みがいっそう高まっていくことを期待する次第でございます。

最後に、このシンポジウムが、ご参加の皆様のご活力となり、明日からの教育活動に生かされますことを期待申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。

